

令和7年度 第2回さいたま市博物館協議会 会議録

開催日時 令和8年3月11日(水) 午後2時から午後3時30分

開催場所 さいたま市立博物館 講座室

出席者名 委員：杉山正司委員長、坂野千登勢副委員長、浅野永子委員、市橋大委員、
金子直美委員、笹森紀己子委員、土屋富美委員、
橋本直子委員、花井紀子委員、松岡聖子委員、宮島和宣委員、

事務局：生涯学習部長、博物館長、博物館長補佐兼事業係長、
博物館長補佐兼管理係長、同事業係主査、同事業係主事、浦和博物館主任、
浦和くらしの博物館民家園主査、旧坂東家住宅見沼くらしっく館主幹、
与野郷土資料館主査

傍聴人 なし

さいたま市博物館条例第14条に基づき、令和7年度第2回さいたま市博物館協議会を開催しました。

会議名 令和7年度第2回さいたま市博物館協議会

博物館長補佐兼管理係長の司会により開会し、任命書交付式、博物館長のあいさつに続き、さいたま市博物館協議会規則に基づき、委員長が議長になり議事に移りました。

議事

議長

それでは議事に入りたいと思います。はじめに議事の(1)令和8年度事業予定についてですが、委員の皆様には既にお手元に資料が届いて、ご一読いただいているかと思ひます。資料の1ページから6ページまで、特別展と企画展を除いた部分につきまして、各館事業予定について、皆様からご意見、ご質問等をお願いしたいと思います。遠慮なくお願いいたします。

では、最初に私から水を向けたいと思ひます。浦和博物館ですが、講座で夏休み子ども博物館、なぜ小田急(電鉄)なのかを疑問に思ひ、前に伺った気もするのですが、ちょっと忘れてしまったので、お答えいただければと思ひます。

事務局

浦和博物館でございます。小田急(電鉄)とは、ちょうど数年前、令和4年度の鉄道150周年に際し、小田急とコラボして以降、一緒にやらせていただいております、毎年実施しており今後とも続けていきたいと思ひしております。

議長

他の鉄道会社とのコラボは、特に考えていないというか、検討はされていないですか。なぜさいたま市なのかという形でも出てくると思うので、今後そういったことも、模索されていいかなと思ひます。どうでしょう、他に意見。

笹森委員

市立博物館の来年の今頃の企画展は弥生時代を計画されています。ここ（市立博物館）で、弥生時代の企画展はちょうど15年前にやっているといます。なぜ15年とパッとわかるかと言いますと、ちょうど東日本大震災が起きまして、計画停電になりまして、企画展の展示が、校正とかならどこでもできますが、展示室に電気がつかないと物は展示できないので、それが間に合うかどうか非常に苦労した思い出があります。地震の起きた日は私もここに泊まったりした思い出もあります。それでちょうど15年経って、この展示の話に戻りますと、この15年で新しい資料もたくさん市内でも出土していますし、それを活かすというのも良い手です。それから弥生時代の定義ですとか、社会の見方ですとか、それらもずいぶん大きく変わっています。（弥生時代の）開始年代とか、いろいろなものの伝わり方とか、社会の変化とか、認識が、教科書に書かれていることも変わっていることもたくさんありますし、それらを踏まえて作られたら良いかと思えます。以上です。

議長

ありがとうございます。次にご意見ないでしょうか。

花井委員

変なことをお伺いしますが、博物館で資料の殺虫とか、燻蒸をされるとは伺っています。この燻蒸の薬品が今後なくなるというお話がちょっと話題になったことがあります。資料の中に燻蒸のことが書かれてあるんですけども、さいたま市の博物館で、それらに対する在庫というか、対応は今後大丈夫なのか、そのような話を聞きましたので、現状どうなのかと思いました。

議長

事務局お願いします。

事務局

ガスにつきまして、発売を停止したガスが出ましたので、そちらは使用できなくなったのが事実です。使えるガスについては使わせていただき、発売が禁止されたガスは収蔵庫の燻蒸で使っていたもので、そちらに関しては今、IPM というこまめに菌を掃除するような形で取るというものをやっております。令和7年度は、その方法での予算を取りました。このような方法の変化を研究しながら続けていく予定です。

花井委員

今のところ大丈夫と考えてよろしいですか。

議長

やはりIPMを徹底的にやるしか、今のところ方法はないですね。よろしくお願いします。他にいかがでしょう。

松岡委員

資料に書いてある（市立博物館の）講座の9「ナイトミュージアム」というのはどのようなことでしょうか。

事務局

市立博物館です。ナイトミュージアムは、今回は特別展の期間中に予定しております。昨年度、一昨年度については、庁内の職員向けのナイトミュージアムということで、あらかじめ参加者を

職員向けで募集して、夜間に見ていただくのを試しに行いました。来年度は、開館時間が今は16時30分までですが、もう少し遅い時間まで延長開館を行って、一般の方に夜間も見てもらおう機会を作るという方向で検討しています。回数、開催日時、どのぐらいまで開くかについてはまだ検討中で、経費の問題などもあるので検討を進めて、決まりましたらまたご案内ができればと考えています。

議長

他にいかがでしょう。

浅野委員

蛍光灯についても、LED化をしなければ在庫がなくなっていくと想定されます。現在の博物館の取り組みや代替について見通しを教えてください。

議長

はい、事務局お願いします。

事務局

こちらは、さいたま市議会でも質問されまして、さいたま市、市役所全庁で進めていく課題となっており、令和7年度でごく一部ですが手持ちのお金から工面できることを全館全部できたところもあります。岩槻藩遷喬館は今回できましたが、一部できるところは進めているのが令和7年度です。先ほど言ったように市役所、全庁の他のところも全部含めて、蛍光灯が水俣条約の関係で販売されなくなるので、財政局が予算の順番を考えています。博物館は令和8年度に予算要求して、令和9年度実施ということで、今、全庁の中で進めていて、LED化にしていくという方向で進めています。以上です。

浅野委員

わかりました。ありがとうございます。

議長

令和9年度に全館、館内は終了するんですね。それまでに、たとえばフリッカーが始まったなどの場合の代替の備品は用意されているのでしょうか。それ以前に、切れても交換できないとか、やっぱりお客さんに対して支障が出ると思うのですけれども、その辺は大丈夫でしょうか。備蓄というか。お願いします。

事務局

それに関しては、その都度までは、抱えている在庫もしくは、ある蛍光灯を買うなどして対処するしかないかなと考えておりますが、LED化を進めているところです。

議長

利用者の不便がないように進めてください。他にいかがでしょう。

橋本委員

浦和博物館の講座で、4「見沼通船堀のしくみ実験」と「農具・民具から学ぶ昔の知恵」を並べているもので、イメージ的にどんな感じかと思ひまして。実際に真夏に開催される見沼通船堀開門開閉実演は見るだけですけれども、講座としてどんなふうにおやりになる思惑なのかというのを聞かせていただければと思います。

議長

お願いします。

事務局

こちらの講座については、アクリルで作った（見沼通船堀の）模型がありまして、こちらの模型に水を入れて、閘を止めたりしながら、通船堀がどのように実際に使われているのかという実験を行っています。一緒に行く「農具・民具から学ぶ昔の知恵」は、当館にある農具・民具を使用しながら、子どもたちに体験していただくような形をとっています。

橋本委員

これは個別と考えていいのですか。一緒にやるのですか。

事務局

同じタイミングでやる形です。「見沼通船堀のしくみ実験」は実演実験ですので、皆様にお見せして、そのあとに農具・民具の体験を行うという形になります。

橋本委員

わかりました。お水を使うので、場所の養生はどんなふうになされているのですか。あと水に関しては漏れたりしないのですか。

事務局

玄関前で行います。玄関で外の水を使って、実際に流したという形をとっています。

坂野委員

実は私、参加したことがあって。親御さんとお子さんがいらして、非常に興味深く見ていました。私も一緒に見せていただいて、あの通船堀の仕組みとかを。

橋本委員

わかりやすいですね。

坂野委員

はい。実際にお水を流していただくのを見るとよくわかりまして、楽しかった記憶があります。

橋本委員

（「見沼通船堀のしくみ実験」と「農具・民具から学ぶ昔の知恵」の）2つを読むと、この通船堀となかなか（農具・民具が）結びつかないので、ちょっと違和感がありました。もう少しネーミング的に何か。ダイレクトにやることを書くほうが親切と言えば親切ですが。はい、わかりました。

議長

候補というか、その辺の工夫で。事務局お願いします。

事務局（雨宮）

浦和博物館の民具の体験というのは、民具なら何でもいいわけではなくて、通船堀を開削したときに実際に使ったと思われる掘削の道具だとか、四人突きとって、今だとロードローラーという機械、車でならしますが、人力で平らにしていく道具だとか、あともっことか土を運ぶ、または担ぐ、そういう体験ですね。（通船堀の）工事をしたときに使った道具の体験という形で、通船堀の話と付随してやっています。

橋本委員

それでは杉山議長がおっしゃったように、「通船堀を作った民具」とか。民具と言われるとどう

しても米だとか、鍬だとか鋤というのはたぶん土木工事でも使いますが、そこでもうちょっとリンクさせると、一本の講座になるのではないですかね。

議長

ちょっとネーミングをもう一度工夫して。

事務局

そうですね。「通船堀を作った道具たち」っていうかね。民具たちっていうとどうしてもわかりにくいですよ。

議長

もう少しこの辺を工夫して、候補も考えてください。

他にいかがでしょう。

土屋委員

土屋です。よろしくお願いたします。浦和博物館の講座5「初めてのバードウォッチング」となっているんですけども、こちらは浦和博物館において初めてバードウォッチングを開催するということですか。

議長

お願いします。

事務局

通常、月1回、定期探鳥会というものを、日本野鳥の会埼玉が行っています。そちらの会とは別に、その参加者は毎月のように来ているので、玄人の方がいらっしゃることもありますが、こちらの講座は、初めてバードウォッチングを始めますよという方向けのものになると考えております。

土屋委員

ありがとうございます。

議長

他にいかがですか。はい、お願いたします

花井委員

「鉄道教室と埼玉高速鉄道見学会」を浦和博物館でやる企画ということですが、どうしてもイメージが大宮とってしまうので、どのようなことを実際やるのか、この（講座の）名前だけだとよくわからないので。これは現場見学会のようなことをされるのでしょうか。

議長

はい、事務局お願いします。

事務局

浦和美園駅で行いまして、埼玉高速鉄道を実際に見学したり、毎年内容は少しずつ変わりますが、ペーパークラフトを行ったり、あと車掌体験という形で制服を着てみたりなど、埼玉高速鉄道のコラボ企画ということで実施しています。

花井委員

浦和美園にそういう場所がある、見学できる場所があるのですか。

事務局

浦和美園駅の構内にそういった講座を行える場所があるので、そちらで行っております。

花井委員

ありがとうございます。

議長

他にいかがでしょうか。

笹森委員

またまた浦和博物館で。資料が具体的に書かれているので質問しやすいので、すみません。浦和博物館のところに「クリスマスコンサート」とか、コンサートが3つくらい書いてあって、旧坂東家住宅見沼くらしっく館のところに「DOMA（どま）コンサート」と読むのですかね。コンサートはどんなことを行っているのですか。どこから（講師を）呼んできてとか。両方の（館の）方をお願いします。

議長

はい、お願いします。

事務局

まず浦和博物館ですけれども、「スプリングコンサート」と「埼玉大学合唱団定期コンサート」が、いわゆる合唱団が来るコンサートになりまして、内容は毎年少しずつ変わりますが、秋のコンサートに関しては埼玉大学の合唱団に来ていただいて、こちらは毎年、連携の形でさせていただいております。「クリスマスコンサート」に関しては、今年度はさいたま市ないし川口市のグループをお呼びして、ジャズコンサートを行いました。「スプリングコンサート」に関しては、今年度に関しては、ちょうどこれから行われますが、プロの方が来られまして、浦和博物館の館内を利用して、ピアノとチェロのコンサートを行う予定になっています。ただ、どなたに来ていただけるかというのは年度によるので、毎年同じような内容にはならないということだけご留意いただければと思います。

議長

はい。くらしっく館をお願いします。

事務局

旧坂東家住宅見沼くらしっく館です。よろしくお願いたします。当館でやっています DOMA コンサートですが、少し字面をカッコよく英語で書いていますが、要は「土間」で行うコンサートでございます。昨年度までは2回で、今年から3回に増やしました。けっこう人気のあるコンサートで、定員50名ですが、応募が50名を超えることもございます。今年に関しましては、春にアコーディオンで、みんなで歌おうという企画を行いました。秋にトーンチャイムといって、ハンドベルみたいなきれいな音が出る楽器がありますが、トーンチャイムを使った音楽ですとか。あともう一回が、アーツアンドヘルツという市内のNPOをお願いして、毎回とても優秀なアーティストをご紹介いただいております。今年にはサクスの四重奏ということで、土間、和風の家の中でそういう管楽器なども奏でて、皆様に聞いていただきたい。建物が、2階がない吹き抜けの民家ですから、音が響きやすいのですかね。そういうことで演奏者の方からもご好評をいただいております。

来年度も3回計画しておりまして、1回目の春は、今年度同様にアコーディオンで、みんなで

歌おうという企画です。みんなで歌おう企画は、そういうところでちょっと懐かしい歌を歌いたいという方がいらっしやいまして、年に1回行っているところです。秋に関しましては、まだ選定中ですが、1回は、十三夜に関しまして、お月見をしようかなという計画が今出ています。十三夜は今まで季節展示をしていたので、お月見の展示はしていたのですが、行事として、開館当時にちょっとやっていたことがあります。というも、30年経つのですが、開館から3年、私が若い頃に（旧坂東家住宅見沼くらしっく館に）在籍してまして、当時そういう企画で、夜のお月見とかも実施したことがあります。そのときは好評だったものですから、ちょっと復活させてみようかと。そのお月見を、月が昇るまでの時間を、DOMA コンサートで邦楽か、もしくは少し音色のいいフルートですとか、そういうところで皆さんに聞いていただいて、時間を取っていただきながら、少し暗くなって、あまり夜までは開けられませんが、暗くなってきて月が上がってくるのを見ながら、十三夜についてお話をするとか、そういう企画を立てたいなど計画しています。少し脱線しましたがけれども、以上でございます。

議長

楽しそうな企画です。ぜひがんばってください。

松岡委員

その場合は、出演者の方には謝礼はお支払いするのですか。ボランティアではなくて。

事務局

ボランティアではなくて、市の規定に則った謝礼をお支払いしています。

事務局

浦和博物館も同じです。

松岡委員

それで参加者の方は無料なのですね。

笹森委員

DOMA コンサートは旧坂東家住宅で、畳のところもあるから聞いている人が座るところもありますが、浦和博物館は、展示室のところで演奏されて、お客さんとかは立って聞いているのですか。

議長

はい、お願いします。

事務局

座席を用意します。ただ 30~40 ぐらいの座席しか置けないので、それをオーバーして来られた場合は、たとえば2階からご覧になる、立ち見席という形でさせていただいております。

議長

旧坂東家住宅見沼くらしっく館もお願いします。

事務局

旧坂東家住宅見沼くらしっく館の DOMA コンサートに関しましては、メインはいす席です。土間にいすを置いて。といいますのも、割と年齢層の高い方が多く、ちょっと座るのが苦手という方もいらっしやいますので、いすがメインで、もちろん座席とか囲炉裏周りの板間ですとか、そういうところで座布団で聞くこともできるという形になります。

議長

ありがとうございます。

浅野委員

与野郷土資料館の講座の、「お気楽講座」とそうでない講座の違いを教えてくださいませんか。

議長

お願いします。

事務局

与野郷土資料館です、よろしくお願ひいたします。「お気楽講座」というのと、そうでない講座ということですが、基本的にはすべて「お気楽講座」というのをつけていたんです。ただ、「夏休み子ども博物館」、それから「冬の子ども博物館」については別の名前、それからさいたま市民の日の講座だけは違う形でやっています。そのため1・7・8・9だけが違うということで、全部、与野郷土資料館で行う講座は「お気楽講座」、皆様に楽しんで来ていただく、気軽に来ていただくということで、けっこう学術的な難しい講座もあるんですけども、全部タイトルは「お気楽講座」という形になっています。

浅野委員

はい、ありがとうございます。

議長

岩槻郷土資料館に関してないですか。岩槻郷土資料館だけ残っています。

坂野委員

質問というか、ご覧になっている方もいたかと思うのですが、NHKのEテレで「おとな時間研究所」という番組をたまたま見ておりましたら、建物が中心だったのですが、岩槻郷土資料館の特集でした。番組を通して建物のすばらしさを見せていただきました。この番組が放映されたあとで見学者が増えたとか効果はなかったでしょうか。

議長

再放送入れて、私は3回見ましたよ。

坂野委員

つい最近も、2月にも再放送がありました。

議長

岩槻郷土資料館の方が一生懸命がんばっておられて。

坂野委員

(岩槻郷土資料館の)建物自体は、元警察署ですけども、階段に特徴がありましたね。お花の装飾があるなど。国の登録有形文化財でもあります。もしわかったら、で構わないですが、テレビに放映されたことで、良い効果がなかったかと思ってお聞きしたいのですが。

事務局

市立博物館です。今日は岩槻郷土資料館の職員がこちらには来られないということで、直接そのご意見を聞いているはずのものが来ておりませんので、伝聞です。まず数字的には昨年度との比較になりますが、昨年度のこの時期の企画展、ミミズク土偶の企画展がかなり人気があったお

かげで、人数に現れるような増加は残念ながら生じてはいない様子です。あとは直接、職員あるいはネット上とかで声をかけていただける例はあまりないようです。全く効果がないかどうかは、断言はできないのですが、昨年に比べて人数がそこまで減っている感じもしないので、ある程度底上げ効果もあるのでは、と考えております。

坂野委員

企画展がなくても、それなりの人数の見学者があったということですね。ありがとうございます。

議長

取材を受けたら、広報的にホームページとかで、これから放送されますとか、放送日がわかるはずだから、アピールした方がいいのではないかと思いますけど。他にいかがでしょうか。

橋本委員

全体的な話として、個々の博物館ではなくて、たとえば駅から歩けるところは少なかったりもしますし、同じ民家を使っている、旧坂東家住宅だったり、集合体であったり、見沼にたくさんあります。来館者は個別で行くと思いますが、個別で行ったときに、関連のものがどこにあるよ、みたいなアピールがもうちょっとあるといいのではないかと。たとえば民家も、旧坂東家住宅もすばらしいですが、それじゃなくても、他の地域の農家だったところとか、近代のものとかは、ちょっと遠いけれども、見沼のところにあるよと。そういう来館者の、次の関心をちょっとくすぐるようなPRというか、文言というか。物理的には大変ですよ。でも、何かみんなでもちょっと考えていけるといいかなと思ったりもします。

坂野委員

マップみたいなのができますよ。

橋本委員

そうです。この場所に行くところという建物があると。でもマップ作るのは大変じゃないですか。

坂野委員

最終的な目標として。

松岡委員

スタンプラリーみたいな、夏休みとかで全館回るとちょっとしたものとかもらえるような企画があれば、それを目指してがんばる子どもがいるかもしれない。

橋本委員

保護者の方が興味を持つと、お子さんもついてきますから。要は子どもって何か与えられて、それに興味を持つと、博物館少年・少女になりますよね。幼少の頃からのきっかけですかね。今どうじゃなくて、これからという考え方。今の子はスタンプラリーよりも、スマホを使っていると、なかなかついていけないところがけっこう多いですけども、そういうのも一つの考え方としてはどうか、と思ったりもします。(博物館・資料館が)たくさんあるので、もったいないなと思ってね。

花井委員

私、キリシタンの遺物の修復が国立歴史民俗博物館で終わったのを記念して、京都大学総合博物館の所蔵品でしたので、京都大学の展示と、それに関わるキリシタンの展示、茨木市立文化財

資料館とキリシタン遺物史料館、これは大阪でかなり離れてはいますが、全部行くとクリアファイルがもらえるっていうので、大人でも、旅行がてらに埼玉から行くわけなので、逆に必死になってできました。もちろん大人も子供も変わらないのかなと私は勝手に思っていますが、何かできれば。ただ夏は最近暑いので、いろんな意味で大変かなと思うところがあります。秋の収穫に関わるところで、こういう古い建物を訪れるという中で、そういうおもしろいものがあると、将来、博物館に対する考え方がすごく身近な大人に育ってくれたらいいなど、今のお話を聞いて思いました。

事務局

博物館で、ということではありませんが、秋に、生涯学習部全体で、「学びのネットワーク」ということで、公民館、あと図書館、博物館、その他全部で4個カテゴリーがあって、その中の施設に行くと、そのカテゴリーごとにシールがもらえます。4個集まると何かもらえるとか、そういうのがあって、博物館独自という形ではないのですが、生涯学習部全体でそういう催しも一応やっているところではありますので、その辺も乗っかりながら、一緒に持ち上げていければ思っております。

議長

ありがとうございます。他にいかがでしょう。

なければ、次に移りたいと思います。次の議題の（2）市立博物館の特別展について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

市立博物館です。資料の7ページですが、来年の第50回特別展についてご案内・ご説明をいたします。特別展のテーマはまだ仮題ですが、「昭和100年記念 100年前のさいたまー大正15年・昭和元年・1926年ー」という内容を予定しております。本年、2026年は昭和元年、大正から昭和に元号が替わってから100年ということで、国でも昭和100年記念のイベントを行うということで、それに便乗する形で、当館でも今から100年前に取り扱う時期を絞って、その当時のさいたま市域の様子について紹介するという内容を考えております。当時のさいたま市というのは、昨年がちょうど大宮盆栽村の開村100周年にあたっておまして、いろいろなイベントをやっておりましたが、そのような形でちょうど都市化が進み始めた時期にあたっております。関東大震災が1923年にあって、東京の一極集中から郊外に町が広がってきつつあった時期になりますが、ちょうど今のさいたま市の一つになったものが作られ始めた時期ということで、その変化の始まりの様子ですとか、あるいはもっと古いものが残っていたり、新しいものが現れたりといった境目の時期について、一つの様子がわかるような展示を考えております。構成は章立てが第1章、第2章、第3章、おわりにということで、資料に入れております。ちょっと順番は変わるかもしれませんが、当時の街並みとかの風景、あとはその中で人々がどんな活動、活躍をしていたか、ちょうど真福寺貝塚の本格的な発掘調査が始まったのが1926年のことですので、そういったことを取り上げるなど。あと100年前の生活の様子ですね。服装とか当時の生活用品、冬の展示では毎年お茶の間の再現とかもやっておりますが、そういったものも活用しながら、当時の暮らしの様子もわかるような形。あとは、100年前から見た現在の様子ということで、その後の100年間の理解をざっとつかめるような内容を考えております。関連講座としましては、内容はまだ検

討中ですけれども、2回ないし3回、それぞれの章立ての中で取り扱うテーマに沿ったような内容のこと。真福寺貝塚の発掘調査のことも取り付けられればよいと考えておりますが、そういったこと、あと先ほど申し上げたようなナイトミュージアムですね、夜間開館を期間中のどこかで開催している予定です。広報は、展示図録を例年通り1,200部作成するほかに、チラシ・ポスターの印刷物、そのほかは、市立博物館ホームページ、各種SNSとかと、あとは駅前のデジタルサイネージ等にもポスターの情報の広報を行うことで、多くのお客様に来ていただければと考えております。ざっくりですが、ご説明は以上です。

議長

ありがとうございます。何かご質問ありますでしょうか。

金子委員

100年前のことを語れる人っていうのは、もう私たちの中にいないですよ。そういうことを考えると、すごくおもしろい内容かなと思って、今からとても楽しみにしています。この構成のところで、第1章、第2章、第3章、風景、人々、暮らし、最後に「おわりに」っていうところには、「100年前から見た現代のさいたま市」とありますが、この「おわりに」のところをうまく演出すると、この昭和100年っていうネーミングがすごく意味を持つのではないかなと思います。今から100年前って、ちょうど関東大震災後の混乱で、人々が埼玉に東京から流れてきたことは、今もこの首都圏の一角であるさいたま市の発展と非常に関連があります。それで、都市化が起こり、東京とのつながりが起こり、そしていろんな形で人々の生活も変わり、ラジオ放送が始まり、情報化社会が始まり、ということスタートとして、ここまでこう変わってきたのだというスタンスで考えると、すごくおもしろいかなと思います。しかしこの「おわりに」の「100年前から見た現代のさいたま市」、このタイトルの意味がじっくりこないのですけれども、もう少し詳しく説明していただければと思います。

議長

今の金子委員の件につきまして、説明をお願いいたします。

事務局

市立博物館です。お褒めをいただきありがとうございます。ご期待に応えられるように準備を進めてまいります。「おわりに」のところ、「100年前から見た現代のさいたま市」ということで、これについては、第2章・第3章で取り上げてきた内容ですね。たとえば風景であれば、今でも100年前と同じものが見られるのはどんなところがあるかの紹介とか、あるいはガラッと変わってしまったところがどうかとか、紹介してきた内容が今にどう続いているかということを取り扱えれば、ということでさせていただくようになります。タイトルなど、もう少しわかりやすいものに変えていければと思いますが、趣旨としては、100年前の様子を見てきて、それが今にどのように続いてきているか、という内容を紹介するコーナーにできれば、と考えています。

金子委員

さいたま市といっても広いですよ。街もあるし、ちょっと田舎というか、離れたところもあるし。やっぱり急激に変わっているところと、そんなに変わってないところがいろいろあると思うので、ぜひ地図を使って写真を比較しながらやると、移り変わりがはっきり視覚的にわかるのではないかなと思います。よろしくお願いします。

事務局

定点観測、定点写真のようなものはおもしろいので、ぜひやってみたいなと思っております。

橋本委員

今おっしゃったことに関連していますが、たとえばこの博物館が100年前どうだったのか、とピンポイント的に、わっと驚かすような展示ですね。さいたま新都心とか。あとは変わらないところもありますよね。氷川神社の森はどうでしょうか。スペースの問題もありますが、地形図はなかなか読みにくいとわからないので、地形図と合わせた空中写真が、一般の方にはいちばんわかりやすいと思います。あと自分の身近なものがどう変わったのかという工夫を、スペースを考えながら少しなさるとよろしいかなと思います。

議長

他にいかがですか。

浅野委員

メールに添付されていた資料「令和8年度予算案の概要」の見直し事業一覧の中に博物館の記載がありました。特別展の開催が仕様書の見直しにより予算額を縮小するとのことですが、見直しの内容を教えてください。

議長

はい、事務局お願いします。

事務局

お配りした「令和8年度予算案の概要」だと、ざっくりとした数字しか出ていませんが、特別展というよりも、展示全体で、もう学校にチラシを配ることはやめましょうという方向になっていますので、それらをやめた結果、今までかかっていた業務委託のチラシ印刷の費用が落ちたという内容でございます。他に何かやめたということではないです。

浅野委員

わかりました。運営までに影響があったのかどうか大変心配しましたので、チラシの電子化とのこと、安心しました。

議長

他にいかがでしょう。はい、市橋さん、お願いします。

市橋委員

第1回協議会のときにもご指摘しましたが、さいたま市の博物館のX（エックス）について、フォロワー数が2500程度しかないというお話をさせていただいたと思います。さっき見ましたが、数字が変わっていません。今、チラシは昨今、紙の媒体を作らない方向でいる中で、インスタグラムも含めてこういったSNSをどういう形で今後利用されていくのか。お金はかかりませんが、マンパワーが非常に必要になってくる作業になりますので、とはいえ、告知はやはりしていけないかなと思っておりますので、その辺をお聞かせいただきたい。

あと、浦和博物館にご指摘しようと思ったのですが、展覧会のタイトルというのは、すごく重要だと思います。この展覧会、何やっているのだろう、よし行ってみようっていうきっかけがすごく重要なかなと思います。それと、できるならば、何かその目玉の展示、これをちょっと見に行きたいなっていうようなものを、今、委員の皆様、いろいろ意見言われていましたが、何か、こ

れは見たいなというものをフォーカスして、告知に役立てていただきたいと思います。以上、その2点、お考えをお聞かせいただけますでしょうか。

議長

事務局をお願いします。

事務局

市立博物館です。Xになって、フォロワー数がなかなか伸ばせない状況が続いております。インプレッション数もその都度、投稿から何日か目と、ある程度期間が経ってから目を通すようにしておりますが、なかなかバズリになっていかない。Xの仕様変更もあったようで、本文中にURLが入っていると拡散されにくいとか、そういったことがあるということで、今までは一つのポストの中に全部URLを入れ込んだ形でやっていましたが、ちょっと改善していかないと、と考えているところではあります。その辺については、ぜひこうするといいいとか、工夫があれば教えていただきたいところです。なかなかうまく進められていないところもございますので、大変力不足は感じております。

あとは(展示の)タイトルですね。こちら媒体が印刷物にしたときに入るものと、たとえばXですとかメディアで見たときに入るものとが両立するものもあるのですが、今まではどちらかという紙にしたときの印象で作っていたところが多かったので、そこについても、どんなメディアで見たらどう見えるか、というのを今まで以上に意識してつけていかなきゃいけないかなと考えております。ただ、これもやはりアイデアがどれぐらい出るかの勝負になってきますので、今の時点では努力します、というお答えになってしまうところでもあるのですが。こちら案があればという、ちょっと心苦しいところではあるのですが、ぜひこっそり、こういうのがいいのでは、というのをいただければと思います。我々も、研修会とか、全庁規模で広報とか、研究会とかも開かれておりますので、そういうものに参加したりしながら、みんなの力をつけていければと考えています。

あと、目玉となる展示ですね。こちら毎回展示の中で、写真にして紹介しやすい場合と、そうでもない場合があるのですが、これはやはり目にしてくださった方が興味を引かれるものでないと意味はありませんので、基本的にはその写真、あるいは映像が一番目を引く感じになると思いますので、うまい写真も撮れるように努力してまいります。

市橋委員

そうですね。映像だとなかなかキービジュアルとするのが難しいかなと思いますので、やはり何か展示物、東京国立博物館あたりに相談すれば、何かいいものを持っているのではないかと思いますので、そういったこともご一考いただきたいなど。あと、さっきのXの話ですけど、坂野委員が岩槻郷土資料館のEテレのお話でありましたが、Eテレの公式Xでちゃんと発信しているのを、たぶん岩槻郷土資料館の方はリポストされてないですね。全然関係のない人がリポストしていて、その人のポストにはちゃんとハッシュタグで岩槻郷土資料館が付けられたりしています。せっかくEテレで取り上げられていることは、たぶん、岩槻郷土資料館の皆さんはご存知だったはずですが。そういう細かい作業はすごく重要だと思います。そうしないと2500(のフォロワー数)はずっと推移したままになるので、そういう細かい積み重ねで少しでもフォロワー数を増やすっていう努力は絶対必要だと思います。

議長

ぜひ今後の課題にさせていただきたいと思いますが。タイトルも、キャッチコピーを入れるとか。タイトルを見ると非常に長い。これ、たぶんメディアに載らないと思います。たぶん切られちゃう。もうちょっとシンプルに、大きなタイトル、あとキャッチコピーというのも、検討されたいかなと思います。

橋本委員

（「昭和 100 年記念 100 年前のさいたま」の展示は）立体物がなかなかないですよ。平物ばかりみたいになってしまいますし。紙とかね、そういうものになるでしょう。だったら写真帳を見ればいいという感じにもなるから。難しい。

市橋委員

普通は AR とか VR のような仮想現実の映像化にするぐらいしか方法がないです。なかなかその文物でこれを表現するっていうのは難しい作業ではないかなと思いますね。発想はすごくいいと思います。

橋本委員

あと、市橋委員がおっしゃったように動画ですよ。16 ミリだとか 8 ミリだとか。村の葬式とか。

市橋委員

たぶん、NHK とかアーカイブを持っていたと思います。

事務局

川口市にある NHK アーカイブスで、浦和会館の開館式の動画があるらしいので、そちらとか、ちょっと会場で流せるようにできれば。

橋本委員

その動画を見せるように、会場構成を考えるっていうのも本当にいいと思います。

議長

部屋を閉めて映写会など。

花井委員

よくありますよね。東博でも、尾形光琳の動画を見せるエリアとか。

議長

現実ではちょっと難しいでしょうか。

花井委員

映写室みたいなものですよ。

議長

他にいかがでしょう。地域的なバランスを合併して、浦和と大宮に集中しないようにしていただいてもいいですか。

土屋委員

よろしくをお願いします。土屋です。先ほど議長からもお話がありましたが、さいたま市は 10 区もあるので、それぞれの区で何か特徴があるところ、たとえば南区の別所沼公園などが 100 年前どうなっていたのかとか、それぞれの区で特徴があるところを一ヶ所でも取り上げていただける

と、さいたま市民が自分の区はこうだったというイメージがしやすいのかなと感じました。

議長

はい、お願いします。

浅野委員

国土地理院の地図で、昔の地図をたどっていけるようなデジタルコンテンツが公開されていて、無料使用可かと思います。展示できるコンテンツや情報があるようでしたら、興味がある方がさらに学ぶことができるよう、展示の最後に紹介コーナーを設けてもいいかと思っています。この展示を見たあとも他の方に伝えるということができるので、そういった広がりもぜひ検討いただけたらと思います。

橋本委員

今のお話でいうと、地理院地図で見ると 30m ぐらいまでのスケールで今の地形図が見られます。もちろん拡大すればきりがありませんが。それが空中写真にもなるし、何かのコーナーもあるし、氷川神社を素材としたときに、地図ではこう、何年前の写真はこう、今はこう、みたいなスケール合わせをしていくと、けっこうそれだけでおもしろいのではないかと思ったりもします。なかなか使い勝手に慣れるまで大変ですが。

浅野委員

とっつきにくいアプリも慣れてみたらおもしろいと感じることもあります。川や海の埋め立てなど、昔と変わっているところがあればぜひご紹介いただければと思います。自分の調べ方を紹介すると、中高生とか、ちょっとした調べ物のときに使えるかなと思っています。

花井委員

この間、国立近代美術館に行ったときに、コーナーごとに小さな説明の紙があって、それを集めると1冊の本になりますという企画をされていました。近代の女性美術家の変遷を追った企画で、たとえばその時代とか、美術の主題によって、その説明を、小さな紙ですね。表紙の紙が置いてあって、それを集めながら絵を見ていく。絵の説明って、一つ一つ皆様、最近の写真で収めていく。写真が可能であれば。そういう方が多いですけども、その紙を集めて、お子さんも紙を集めるという。それと絵と一緒に家に持って帰ってきて、図録はちょっと高く買えなかったけれども、ネットでいろんな絵もあとからも見られるので、それと説明をおしゃれな感じにまとめていらっやいました。あとで振り返るアナログ的なものですけども、それもこの作家についてもっと見てみたいとか、そういうことが後追いでできるっていうのもおもしろいと思って。たとえば各場所にちょっとしたおもしろい記事の、よく各地の郷土資料館とかに説明の紙が置いてあったりしますが、ああいうお勉強的なものではなく、もう少し身近にある一点のテーマについて書いて置いておくとか、そういうことをすると、あとからでもまた追えるのかなと思って。私はそれを持って、ときどきその女性美術家の展示がないかな、というのをあとから探してみたいと思っています。参考になっています。

議長

他にはどうでしょう。

ないようですので、次に移ります。(3) 浦和博物館企画展について、事務局からお願いいたします。

事務局

浦和博物館です。今回、令和8年度の浦和博物館の企画展として、仮題ですが、「さいたまの水害」ということで取り上げる予定です。会期は、10月27日から12月6日までの41日間です。趣旨は、近年、気候変動や異常気象の影響もあり、台風とかゲリラ豪雨ですとか、そういった水害のリスク、私たちの暮らしのすぐそばに眠っているということもあります。さいたま市も例外ではなくて、これまでに大きな水害を経験してきていますので、こうした過去の教訓から、たとえばハザードマップを確認するとか、自分の住む場所のリスクを具体的に知ることができるようになっていく。そういった事実を改めて知っていただきたいなと思っております。企画展では、基本的には過去の水害の写真とか市内に残る記録をたどって現在考えられるリスクについて、見て考えることができるような展示が行えればと考えております。もしものときにどういうことが起こり得るのか、ということイメージして、改めて防災に関して点検するきっかけになれば、ということ考えております。関連事業としましては、関連講座を1回考えております。広報はチラシ、市報の博物館、ホームページ、博物館のSNS等で掲載する予定でございます。ざっくりですが、以上でございます。

議長

はい、ありがとうございます。「さいたまの水害」の件につきまして、何かご質問ないでしょうか。はい。市橋委員、お願いします。

市橋委員

先ほども触れましたけれども、「さいたまの水害」というタイトルで、果たしてお客様は足を運んでくれるでしょうか。タイトルはすごく重要ですので、もう少し前向きな何か、こういったことを考える、というような内容のタイトルにしていきたいなと思います。

それと、川をテーマにしたものということであれば、埼玉県立川の博物館とか、国交省の荒川上流河川事務所とか、様々なこういう催しをされていますので、こういったものはぜひ参考にしつつ、情報を交換していただいて、より良い展覧会をしていただければなと思います。

橋本委員

時代的には、過去というのはどのあたりの過去からですか。まずそれをお聞きしたいなと思っております。

議長

はい、お願いします。

事務局

時代としては、基本的には写真でたどれるラインのもので、近年になると考えております。もちろん、たとえば絵図、村絵図とか、そういったところから、災害というか水に対する脅威に対してどういう形で対策してきたのかとか、そういったところはたどれると思っておりますが、そこまでやってしまうとおそらく展示スペースが足りないかなと考えております。

橋本委員

さいたま市の場合、台地に大きな荒川がありますし、綾瀬川はありますけれども、あと真ん中に今の芝川ですね。河川沿線であれば水害というイメージはありますが、むしろ湛水災害、内水氾濫とか、雨で排水が（うまくいかない）、だから芝川の第二調整池のところも越流で作っていま

すよね。その辺のイメージ的になかなかつかみにくいと思うので、今の質問をさせていただきました。

私は東京低地で長らく博物館にいたので、あそこは昭和 22 年のカスリーン台風で、すごい目に遭いました。その前は、寛保二年江戸洪水と言って、江戸時代の 1741 年かな。関東全体ぐらいの大水害があって、それはあちこち被害がありましたが、(企画展の) タイトルを、やっぱりカスリーン台風だけでは展示室が埋まらない。私は近世のプロパーで近世をやっているの、やっぱり江戸時代の水害もやりたいと言ったときに、「徳川実紀」のときに「諸国洪水」、川が満水ってことが記録に出てきます。それだけでは絵図ばかり並べても、一般の方にはわかりにくいので、それで副題として、「カスリーン台風の教訓」っていうことにすると。当時でいうと 20 年くらい前になりますが、それを覚えている方もいてね。だからそういうネーミングっていうのは、市橋さんがおっしゃるように、ちょっと驚かしてもあれですけども。当時いた博物館の民俗の学芸員が、「田んぼと畑」とかいう企画展を民俗でやるのですが、水稻だけではなく、麦も扱いました。その葛飾の畑作みたいなことをやったときに、「東京ムギ・麦」とかいう(タイトル)、ちょうど東京ブギウギに引っかけてですね。それだけでうふふって笑って、なんだろうっていうようなネーミングになるので。本当にキャッチコピーは、学芸員として苦勞なさると思うので、がんばってください。

事務局

ネーミングに関しては勉強させていただきたいと思います。

橋本委員

どうぞよろしく願いいたします。気候変動とか異常気象とか、全てのいろんな災害があるじゃないですか。ちょっと広めて見てもらって、今さらですけど、もうちょっと諸災害で調整し直してもいいかもしれない。

事務局

何かあれば案として、実は地震とかも含める案は出てはいたのですが、展示スペースの関係で大変ですね。どうしてもそこを含めてしまうと、あふれそうだと考えて、逆に水にフォーカスしようと考えております。

橋本委員

だからハザードマップっておっしゃっていたので、なかなか一般の方は、(ハザードマップを) 地区別にもらって、私は貯めてありますけど、実際どうかというと、広げたりして見るということにはならないので。ぜひそれを周知していく、もっと浸透させていくみたいな内容も考えていただけると、私も含めて、何かあったときにどうしよう、という備えになるかなと思いました。

事務局

そうですね、ハザードマップの見方などもできるかなと思っております。ありがとうございます。

花井委員

私は割と西区を調べることが多いのですが、まさに水害との戦い、荒川の水害との戦いでした。大宮とか浦和とかもそうですが。馬宮の歴史同好会が作っている冊子で、当時の水害の時に田んぼの稲を早めに刈って、どこにあげて、ということが詳しく書かれているんです。浦和博物館で

(企画展を)されるということは、展示のエリアとしては、おそらく浦和、緑区とか、その辺が主体になりますか。大宮などは入ってこないですね。

議長

はい。事務局お願いします。

事務局

実を言うと、範囲はさいたま市(全域)に広げたいと考えています。というのも、浦和区や緑区に限定してしまうと、展示できるものがかかなり限定されてしまい、なかなか難しいので。市全体に広げながら、この周辺は、というピックアップはする可能性があるかなと思います。

花井委員

区に限定というのは、そういう経験をされた方が今でもいらっしゃらないかなど。直接でないかもしれないけど、おじいちゃんがこんなことをやっていたとか。私、今、馬宮の歴史同好会に入っているのですが、おじいさんとかがされたことを、お子さんのときにいろいろ見てらっしゃるので、まずお話を聞くといろんなことを話してくださいませ。地域の人がどういう水害、水害と言うと少し大げさかもしれないですが、水とかそういう自然災害とどう向き合ってきたのかということは、ちょっとした会話の中で聞くことができ。それを後付けするわけではないですけど、そういういろんな資料と照らし合わせていくと、おじいちゃんおばあちゃんたちがどういう苦勞をされて、どういう対策をとってそれに立ち向かっていたのかっていう、そういうことがわかる資料が残っている。もしこの博物館に近いエリアに住んでいる方が来るとなると、その周辺のいろんな体験談とかが見えてくると、自分たちの土地が昔はこういうところだったのだという、そういう思いもかけない地域発展のようなこともできる企画になるのかなと思いました。でも、さいたま市全域というと結構大変かと思いました。

議長

いかがですか。お願いします。

笹森委員

さいたま市民というか、旧大宮市民として生きてきた者として、洪水のひどかったのは、鴻沼川と霧敷川の縁辺は私が若かった頃まではよくありました。その後いろいろ対策をして、鴻沼資料館ができたのも水路とか対策をして、それで使われなくなった農具が集まったのだらうと思います。詳しいことは私も時代の専門が違っているので、調べきれってないですけど、そういう一つのことでも調べるのが大変でしょうけど、50年くらい前までは川が溢れていたのが、その後40年くらい前には溢れなくなって、何か対策をちゃんと立てられていたのだと思います。下流の鴻沼排水路で暗渠ができているのとか詳しくは知らないですけど、調べられると思います。鴻沼川の水害の写真もいっぱいあったような気がします。現在の与野本町の駅前付近ですとか新大宮バイパスと宮原駅の交差点の辺りですとか、大変だったのが、もうここ何十年と溢れなくなっているのは、市とか国が一生懸命やったのだらうと思います。調べるのは大変ですけど、文献になっているものもあるのではないかなと思うので、そういう災害をどうやって克服してきたか、ということも扱ったら良いと思います。全ての時代について、昔からいろんな災害とか凶荒とかそういうことを乗り越えるたびに人はよりすばらしくなってきたと思いたいので、そういうような部分を言えたら良いのではないかなと思います。

議長

事務局をお願いします。

事務局

鴻沼に関しては、数年前、私がちょうど市立博物館で展示させていただいたときに、いろいろな写真が出てきまして。まさに苦勞されていた川の一つだそうですね。私も存じ上げておりますが、そのあたりの資料とかも使えればと考えてはおります。

笹森委員

私の杞憂でした。ありがとうございます。

議長

はい、では浅野委員をお願いします。

浅野委員

ちょうど市立博物館の特別展と、浦和博物館の企画展の会期が重なっているので、何か連携したような展示など連携ができればと思ったのですが、いかがでしょうか。

議長

両館からご回答いただければと思います。お願いします。

事務局

市立博物館からです。毎回同じ時期に企画展、特別展等が重なりますので、それぞれのポスターやチラシを貼るなどは、もちろん毎回やらせていただいています。今回はおそらく、取り上げる時代がちょっとかぶるところがあると思うので、まず準備段階では調査成果のやり取りとか、うちにこういう資料があったとか、両方で何か足並みを揃えてできることがあれば。さっきのスタンプラリーみたいなこともありますし、たとえば2つの館でポストカードをもらってきてくっつけると一つの絵になるとか、何かしらちょっと考えます。いかがでしょうか。

事務局

浦和博物館です。時代がかぶるといのは、まさにそのとおりでございまして、100年前の資料というか、写真資料があるかどうかに関しては正直わかりかねるところがありますが、記録は残っているので、その時代に一方こちらは、のような形で、うまくつなげられればいいのではないかなと思っております。ありがとうございます。

浅野委員

たとえば、「ここをもっと詳しく見たかったら市立博物館で紹介しています」や、「この部分は浦和博物館で詳しく紹介しています」とか、そういったご紹介はいかがでしょう。何か双方の展示で興味を深められるような、特に展示の写真などもよいかと思います。

議長

ぜひお願いします。

宮島委員まだご発言いただけていませんが、何かありますか。

宮島委員

間髪入れず皆様のお気づきやご提案とかを聞かせていただいて、気おされているところではあります。ちょっと思ったのが、やはりお話にあったとおり、博物館がこれだけの数があって、連動するような企画があって、それぞれの場所を横断するような、興味を引くようなものがすごく

あると、いいなというイメージです。ここに行けばこれが見られるとか、実際はデジタルでのアピールというお話もありましたが、デジタルでアピールしながらも、調べればわかることというのは、実際に見に行かなくてもいいというイメージが走ってしまう。ただ、ここに行かないと見られないというリアルは当然あるので、それが見せられるというのが、博物館のいいところなのかなと考えています。というのが、たとえば共通のテーマが一つあるという中で、ここはこういうものを見せます、ここはこういうことを見せます。たとえば浦和だったら、大宮だったら、岩槻だったらなどありますが、そういうものがアピールできて、いざデジタルで見せたときに、これは見に行きたいと思わせるような見せ方ができるのが、してやったりという感じなのかな、と考えます。

ただ、なかなか連動していくことはエネルギーを使うかと思えますし、立ち上げるパワーは、相当な労力と時間を取るものだと思います。それができると、なかなか他のところではできないことができるというカラーにもなってくるかと思えます。なので、先ほどあった昭和 100 年と水害の話、つながるところがあると思いますが、もっと大ぶりのテーマで、共通的なものを見せながら、地域の特徴とか、この博物館ではこういうカラーがあるということを見せて、どこへでも行ってみたい、それぞれもアピールできるというようなことがあると、すばらしいのかなと思えました。私は以上です。

議長

ありがとうございます。今回の展覧会に限らず、今までで言い残したことを含めて発言いただければと思います。

花井委員

今、子どもたちは安定した環境というか、水害の経験も少ないです。今までにない自然災害の影響って、最近は違う意味で影響あるかもしれませんが、そういう意味でこういう水害が起こりうる土地、歴史というか、そういうものを子どもたちが感じられる展示になるのがおもしろいかなと思いました。東日本大震災から 15 年ですけれども、被災する可能性は博物館に限らずみんなにあります。陸前高田市の X は 1 万 2000 人のフォロワーさんがいらっしゃって、今もいろんなことを発信しています。大変だった状況が今こうなっているということを、全国のファンが見ています。いつ何が起こるかわからない自然環境の中で、今後の博物館がどういう備えをしていくのかということも、今日はすごく気になってお伺いいたしました。そういう意味で、この中には特にそういったことが書かれてはいないのかな、とは思いますが、たぶんそれぞれの担当者の方がいろいろ考えていらっしゃると思うので。私は勤めた会社が石巻にありまして、目の前が海でしたので、事務所が流されましたし、仕事の中で運送会社さんの泥まみれの伝票が来るということもありましたので、やはり陸前高田もそうですけど、ものすごい被害を受けた博物館や資料館もたくさんあったかと思えます。何も海だけの、津波だけの被害じゃないと思いますので、そういう備えも博物館として考えていただくことも発信していただけるといいのかな、と考えながら今日来ました。

議長

ありがとうございました。博物館としても危機管理マニュアルとか作って何かやっていますよね。

事務局

マニュアルは当然作ってありまして、いざというときにはそれに基づいた行動をとるということになっています。ただ現実には我々が管理している博物館の中で、風水害に遭っているところがあります。民家園はよく浸水する施設なのですが、「雨にも負けず」という写真展で、その苦労を展示で紹介するようなこともしております。ただ何人かの委員からご指摘があった、災害の備えという観点が、我々も展示の中身でちょっと抜けていたかなと思いましたが、その辺もこれらの展示について取り入れられれば紹介していきたいなと思います。

議長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。全体に関わることで結構です。

金子委員

全体に関わることですが、博物館というのは実際にそこで学んで、じゃあ、これから自分たちがどういう暮らしをしていくのか、自分はどういうふう生きていったらいいのか、そういうことを考える場だと思います。ですから、この水害についても、実際に展示資料を見て、そして防災について考えようという気持ちを育てていく、そういう終わり方が望ましいと思います。また、特別展「100年前のさいたま」に関しても、これからのさいたまはどういうふう変わっていくのだろうという夢や希望を持たせる終わり方はどうでしょう。たとえば事前にどこか近くの小学生にさいたま市への夢や希望を書かせて、それを掲示してみるとか、そういう未来につながるように、それをまた家庭での話題につなげるようにストーリー性のある展示をお考えいただきたいと思っています。

議長

これからの100年に向けて、そういった視点も入れて考えてみてください。他にいかがでしょうか。

松岡委員

数年前に委員さんからお話が出ましたが、こちら（市立博物館）の設備が、開館してから、特にお手洗いが本当に古くて、予算要求をどんどんやっていただき、毎年そういう意見が出ていることを市に伝えていただきたいなということがあります。やはり清潔さはとても大事なことはないかと思います。

それともう一つは、私も年齢を重ねてきて、地下が常設展示なので、エレベーターがない。もし車いすの方などが来たときにはどうしているのかなというのが、だんだん自分の足腰が悪かったらどうなってしまうのか、この館では気になっているのですが、どうでしょう。

議長

全般ですけれども、お願いいたします。

事務局

管理の担当です。トイレに関しては修繕したところがありまして、今回、市立博物館と民家園で修繕をしたときに、修繕する部位が、全体的に変えなければいけなかったのが、市立博物館でも男子トイレ1器、女子トイレ1器、ちょうど今、洋式トイレに修繕したところがあります。来年度以降もそういった修繕に合わせて交換することは考えています。

エレベーターについては、市立博物館の荷物運搬用のエレベーターがありまして、車いすの方

は入り口などでお声がけいただければ対応するようになっていきます。

松岡委員

そういうときに、入り口に、何かあればお声をかけていただきたいと書いておいたほうがいいのかなと思います。入り口のところにスロープはあるけど、そこを入ってからはどうしたらいいのかなと思ってしまいますので。

議長

案内板の設置というのはあるのですか。私はちょっと気がつかないです。

松岡委員

私も気がつかないです。

事務局

案内板はなくて、通常、受付や警備員が（館に）入ってすぐのところにいるので、あとは事務室もすぐ脇にあって、我々からのぞいてみてすぐわかるので、職員なり警備員が対応しています。あと、車いすの方でなくても階段の上り降りが厳しいという方も若干いらっしゃるので、そういう方も含めて、杖をついている方などにも、業務用のエレベーターをご案内しております。

議長

できれば人だけじゃなくて、案内板もあったほうがいいかなと。それほどの手間ではないと思うので、ぜひその辺の設置もお願いできればと思います。

他にいかがでしょうか。

浅野委員

施設関係でちょっと思い出したのですが、ここはさいたま市のWi-Fiが入る予定はありますか。図書館は入っているなど思うのですが、いかがでしょうか。

議長

いかがですか。

事務局

現状では予定はないです。Wi-Fiをつけられるような研究をして、実際にどのくらいかかるかというところ、金額を提示したこともあります。先ほどトイレの話も出ましたが、壊れたものの修繕がどうしても優先されてしまうので、改善する修繕まで時間がかかってしまうので、まだできていません。

浅野委員

それは博物館から希望するのか、それとも市のほうから提案があるのですか。

事務局

博物館のほうから、やっていきたいと声を上げて出していくことになります。市でも確かに、デジタル改革推進室というところがあるホームページで、進めていますよとなっていますが、我々が手を挙げると予算がつくように応援をしてくれますが、具体的にお金を出してくれるところまでは。我々が財政当局と話をするとき、我々が苦しくなったときなど、少し応援してくれます。ないお金は財政局もなかなか出してくれませんが、簡単にはいきませんが、我々から声を上げて進めている、というのが現状の進め方です。

浅野委員

詳しくありがとうございました。わかりました。

議長

他にいかがでしょう。

今日はご欠席ですが、岩橋委員からご意見、コメントをいただいていますので、読み上げさせていただきます。

「市内の各館では、それぞれ工夫され、特色のある事業展開をめざしておられる様子がうかがわれます。

たとえば、さいたま市博物館では様々な年齢を対象とした行事を企画しておられますし、さいたま市立浦和博物館では、就学児童を対象にしたイベント、浦和くらしの博物館・旧坂東家住宅見沼くらしっく館では年中行事を中心にしたイベントが予定されており、各館の特色を生かした事業計画を立てておられることがよくわかります。

全体としては、年齢層を横断する、あるいは文系と理系を横断するようなイベントがあってもよいようにも思います。たとえば、浦和市立博物館企画展「さいたまの水害」(仮題)は、文理をこえた多角的なアプローチができそうですし、実際に、過去の災害地を歩いてみることで、幅広い年齢層がともに災害を考える機会になるようにも思いました。」

というコメントをいただいております。ぜひこのあたり、委員からも出た意見がありますので、この辺をうまく取り入れていただければと思います。何か他にございますか。

じゃあ最後、「その他」へ移りたいと思います。事務局から報告がありますので、お願いします。

事務局

1点、皆様にご報告です。この度、さいたま市立博物館、浦和くらしの博物館民家園、旧坂東家住宅見沼くらしっく館の3館につきまして、改正博物館法に基づいた新しい登録博物館に、さいたま市教育委員会から認証を受けましたので、その報告をさせていただきます。さいたま市の教育委員会として博物館登録されたのが、今回の3館が初めてのケースでございます。それから、浦和博物館につきましては、ちょっと遅れていますが、今、登録の申請を行う手続きをしているところで、今年度は難しいそうですが、来年度中に、同様に登録博物館の申請を行って、認証を受けたいと考えております。以上でございます。

議長

ありがとうございました。最後、皆様何か言い足りないことはないでしょうか。大丈夫でしょうか。では館長お願いします。

事務局

今回の議事とは関係ないのですが、昨年度以前に委員の皆様からアイデアをいただいたものがありました。街歩きイベントなどを実施して、入館者を増やしたらどうかというような話が出ました。なかなか博物館だけでそれを企画するというのは難しいことだったのですが、関係の部署に働きかけをして、街歩きイベントをやっているところに博物館も入れてくださいとお声がけをして。実際にそれが実現したのが、一つが旧坂東家住宅見沼くらしっく館。これが東武健康ハイキングと言って、東武鉄道が主催しているもので、ホームページを見れば皆様も見られるかなと思います。「初夏の花菖蒲と歴史、自然を満喫するハイキング」というのを組み立てていただきました。七里駅が出発かつゴールなんですけど、ちょうど一番南側にあたる、くらしっく館に来て

折り返して帰ってくるというものです。そのときに本当にたくさんの人に来ていただきまして、来館者がものすごく増えまして、来年度以降比較したときに困るなというくらい、全部で1000人くらい増えています。あと岩槻藩遷喬館、こちらがもともと岩槻区で観光経済室というのを持っています、そこが一生懸命やっているところではありますが、そこも含めて今年度については全部で4件入れていただきました。デジタルスタンプラリーとか、あと歴史散策スタンプラリー、岩槻まち歩き、親子雛めぐりスタンプラリーというものが、観光経済室だけではありませんが、岩槻の商店会の連合会ですとか、その辺のご協力をいただきまして、こちらはかなりたくさんの方に来ていただいた状況です。皆様のお知恵で、来館者を増やすことができまして、お礼とご連絡です。ありがとうございます。

議長

ありがとうございました。これで本日の議事、終了させていただきたいと思います。委員の皆様、長時間にわたりご意見ありがとうございました。